保護者や地域の皆様へ

幼児一人一人が未来の創り手に

ー幼児教育Q＆Aー

一般社団法人保育教諭養成課程研究会

園長先生や地域の幼児教育のリーダーの方々へ

【はじめに】

「幼児一人一人が未来の創り手にー幼児教育Q＆Aー」は、幼児教育について保護者や地域の皆様にご理解をいただき、子供の健やかな成長を一緒に支えていくことを目指しています。

是非、保護者会や子育て講座等の機会で、幼児教育のお話しをする際にご活用ください。活用に当たっては、次の3点にご配慮ください。

- シート毎に「解説のポイント」を示しています。保護者の方々にお話しをする際には、事前にご確認ください。
- 本資料とタイアップした園長等を対象とした幼児教育啓発パンフレットを作成していますので、このパンフレットも参考にしながら、保護者にお話しください。なお、このパンフレットは、園長等が対象であることから専門的な用語を用いていますので、保護者に分かりやすい説明となるようにしてください。
- 以下は、各シートの「説明の一例」です。▲印は、写真の説明の箇所です。
  なお、下線（※）の用語については、各園の状況に合わせて幼児の姿を例示するなどして工夫し、保護者等の方々に分かりやすく説明してください。

【説明の一例】

「幼児一人一人が未来の創り手にー幼児教育Q＆Aー」は、幼児教育について保護者や地域の方にご理解をいただき、皆様と共に子供たちの健やかな成長を支え、将来の担い手である子供たちを育てていことを目指しています。主な内容は、子供の育ち、遊びの重要性（遊びは幼児にとっての学び）、幼稚園教育（幼保連携型認定こども園の教育及び保育）を通して育みたい資質・能力、幼稚園教育（幼保連携型認定こども園の教育及び保育）と小学校教育とのつながり、家庭や地域との連携についてです。

人はどのようにして育つの？

０歳から５歳へ、そして学童期へ、発達や学びはつながっていきます

《安心・安定》幼児が健やかに育つ基盤

【解説のポイント】

誕生してから、乳幼児期、学童期へと、発達や学びは連続しています。特に乳幼児期における「安心・安定」は、子供が健やかに育つ基盤になります。だからこそ、家庭と連携し、保護者と共に子供の心と体の育ちを支えていくことが大切ということを解説します。

【説明の一例】

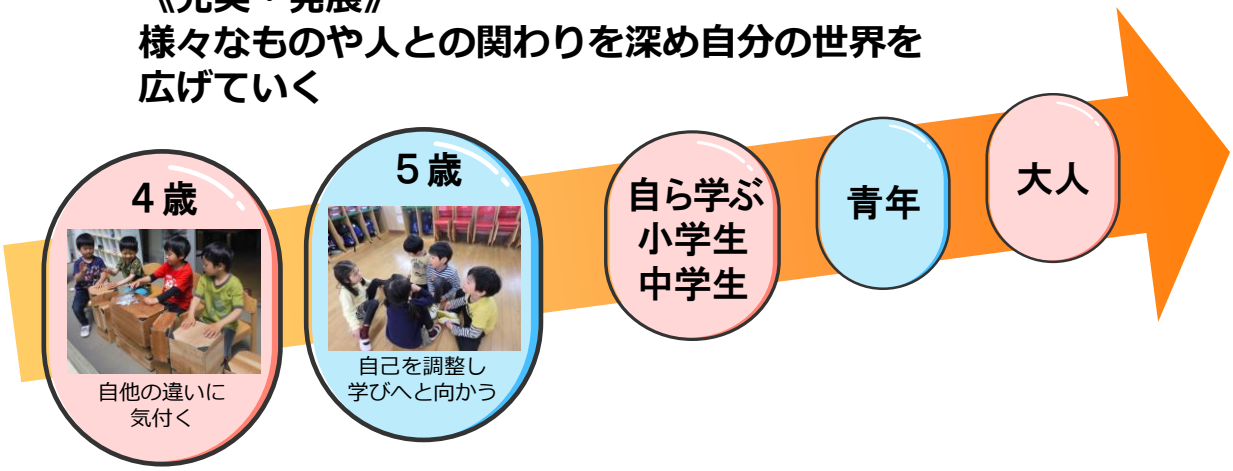
子供の発達や学びは連続しています。赤ちゃんから大人まで、発達や経験し学んでいることはつながっていきます。

▲0歳・・愛情に包まれることで、すくすく育ちます。
▲1歳・・ 自分でで歩き出し、様々な世界と出会って大きくなっていきます。
▲2歳・・イヤイヤ、ニコニコ、いろいろな気持ちを表し、大きくなっていきます。
▲3歳・・好奇心が広がり、やりたいことをいっぱい見つけるようになる頃、同年代の幼児同士の集団生活が始まります。

人はどのようにして育つの？

乳幼児期から、学童、青年、大人へ、発達や学びはつながっていきます

《充実・発展》
様々なものや人との関わりを深め自分の世界を広げていく



【解説のポイント】
好奇心旺盛な4歳、5歳になると、様々なものや人との関わりを深め、自分の世界を広げていきます。そのことが小学校以降の生活や学習の基盤となり、さらには義務教育及びその後の教育の基盤となっていくことを解説します。

家庭と幼稚園（幼保連携型認定こども園）との連携
このような幼児期の発達を踏まえ、家庭と園では、それぞれの役割を果たしながら連携し、幼児の健やかな成長を支えます。それぞれの役割とは、家庭は、愛情としつけを通して幼児の成長の最も基礎となる心の基盤を形成する場です。園は、これらを基盤にしながら家庭では体験できない多様な体験をする場です。

幼稚園（幼保連携型認定こども園）への入園（家庭生活から園生活への接続）
入園当初は、泣いて親から離れない子供もいますが、子供にとって園は、よく知らない初めての場所ですから、当然のことです。 特に入園当初は、園では担任との信頼関係（※）を築きながら、幼児自身が「学級は安心できるところ」ということに気付いていくことを第一にして保育しています。

【説明の一例】
▲4歳・・友達との関わりの中で、だんだんに自分の思いと異なる思いをもっている友達の存在を意識するようになります。だからこそ、友達と一緒の遊びは楽しいのです。
▲5歳・・友達との関わりを深めつつ、自分の気持ちを調整することを学んでいきます。幼児は様々なものや人との関わりを深め、何かを感じたり考えたり、それらを表現したりして生きる世

界の面白さを味わい、学ぶの楽しさを体験していきます。

幼稚園・幼保連携型認定こども園では、

どのような園生活をしているの？

遊び　昼食　遊び　登園　降園

ある園の１日の生活の流れ

【解説のポイント】

幼児は、登園から降園までの一日の園生活を通して、幼児期の発達に必要な様々な体験をしています。写真の具体的な活動を取りあげて、幼児が経験し学んでいることや、身に付けていることを解説します。幼保連携型認定こども園（※）は、教育・保育を一体的に行う施設であり、保護者が働いている、いないに関わらず利用可能であることを解説します。

【説明の一例】

園の一日を紹介します。

▲ 朝、園に来ると、幼児は、教師（保育教諭）や友達とあいさつを交わし、身支度をして室内や戸外で自分からやりたい遊びを見つけて始めます。いろいろある中から自ら選んで行動することに幼児期としての意義があります。

▲ いろいろな遊びを楽しんだ後には、使った物や場をきれいに片付けます。

▲ 昼食時には、自分から手洗いやうがいをしたり、当番になると机を拭いたり、みんなの前で食事のあいさつをしたりして、生活習慣や社会性を身に付けていきます。

▲ 昼食後も、元気いっぱい活動します。園では、幼児一人一人が園生活の中で、幼児期にふさわしい様々な経験ができるように、カリキュラムを工夫しています。

▲ 教師（保育教諭）や友達と一緒に、一日の遊びや生活を振り返り、翌日の園生活で何をするかを話し合ったりして、次の日に期待をもちながら降園します。

園によっては、預かり保育があります。また、幼保連携型認定こども園は、教育・保育を一体的に行う施設であり、保護者が働いている、いないに関わらず利用可能です。幼児は、教育環境（※）が整った園生活の自然な流れの中で、主体性（※）や社会的な態度（※）などを身に付けていきます。

幼稚園・幼保連携型認定こども園では、

どのような園生活をしているの？

夏　秋　春　冬

ある園の１年間の生活の流れ

【解説のポイント】

幼稚園（幼保連携型認定こども園）の園生活では、幼児期にふさわしい適切な教育環境（※）の下で展開される主体的な遊び（※）を通して、幼児は豊かな体験を重ね、心も体も大きく成長していきます。

【説明の一例】

園では、どのような１年間を送っているのでしょうか。

▲ 春は、入園・進級と環境が変わる時です。園内での草花やニワトリなどの生き物との関わりは、その緊張した心を解きほぐします。

▲ 夏は、戸外遊びやプール遊びなどを思いきり楽しんで開放感を味わい活動します。

▲ 秋には、園行事の運動会に参加したり、秋の自然に触れて思い切り遊んだりします。

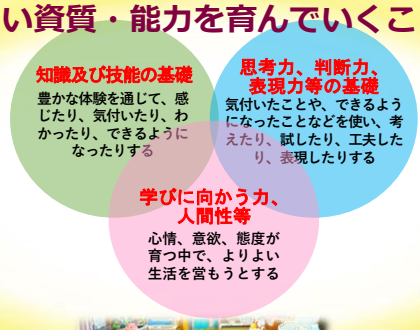
▲ 冬には、もちつきや節分等、日本の伝統文化に触れる貴重な経験もします。

幼児期にふさわしい園の教育環境の下で、幼児は、四季折々の自然に触れたり、日本の伝統行事を楽しんだりして様々な遊びを楽しみ、豊かな体験を重ねています。

幼児期に育てたいものは？

自立心を育み、
人と関わる力を養います

幼稚園教育等において
育みたい資質・能力を育んでいくことです



好奇心や探究心を育み、
生活に取り入れる力を養います

自ら健康で安全な
生活をつくり出す力を養います

相手の言葉を聞き、自分の
言葉で表現する力を養います

自分なりの表現を通して、豊かな感性と表現する力を養います

【解説のポイント】

幼稚園(幼保連携型認定こども園)から高等学校までを通して、「生きる力」を育むため、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を育みます。幼稚園(幼保連携型認定こども園)では、学校教育のはじまりとしてその基礎を育みます。

幼児は、遊びの中で、幼稚園教育(幼保連携型認定こども園の教育及び保育)において育みたい資質・能力が育まれていくことを解説します。その際、写真と対応させながら、遊びの中で育まれている力を具体的に説明し、幼児期の遊びの中で育てていることが、幼稚園教育(幼保連携型認定こども園の教育及び保育)において育みたい資質・能力につながっていくことの理解を促していきます。さらに、一つの遊びの中に様々な学びがあることも伝えます。

【説明の一例】

幼児が夢中になって遊ぶ中で、様々な体験を通して、幼稚園教育(幼保連携型認定こども園の教育及び保育)において育みたい資質・能力(※)が育まれていきます。自発的な活動としての遊びは、幼児にとって重要な学習です。

▲ たとえば、同年代の大勢の友達と遊ぶ中で、幼児の自立心が育まれ、幼児同士のいざこざの体験などを通して人と関わる力が養われます。
▲ 体を様々に動かす遊びでは、自ら健康で安全な生活をつくり出す力が養われます。
▲ 遊びに使うものを自分たちで作ったりする活動では、好奇心や探究心が育まれ、生活に取り入れる力が養われます。
▲ 自然と関わり友達とともに様々な発見を楽しむ中で、好奇心や探究心が育まれるとともに、相手の言葉を聞き自分の言葉で表現する力が養われます。
▲ ごっこ遊びを楽しむ中では、自分なりの表現を楽しむことを通して、豊かな感性と表現する力が養われます。

自己を表出し、ものや人と関わる力が育つには？

遊びを通して育ちます

人と関わる

先生や友達、地域の
人など多様な人と
関わる経験をします

自己を表出する

安心して、のびのびと動いたり、
自分の思いを出したりしていきます

ものと関わる

興味や関心に沿って、
いろいろな遊具や道具などを
使って遊びます

【解説のポイント】

幼児の主体性を育て、ものや人との関わる力を付けていくためには、「遊び」が重要な意義をもっていることを解説します。心が開放されて遊ぶ中で、幼児は自ら選んで様々なものや人と関わり、多様な体験を重ねていきます。時には、思い通りにいかないマイナスの体験もありますが、これらの体験も含めて、幼児は遊びを通して、好奇心・探究心をもってじっくり取り組む態度や、自己を表出する喜びや人間関係を調整する力を身に付け、幼稚園教育（幼保連携型認定こども園の教育及び保育）において育みたい資質・能力を育むことにつながっていくことを解説します。

【説明の一例】

幼児が、自発的な活動としての遊びの中で、様々なものや人と関わる体験を重ねていくことを大切にしています。それは、幼児期の特徴として、一方的に「○○をしなさい」と言われて行動することよりも、自分の意思で能動的に物事に関わって行動することの方が、体験を通した深い学びになっていくからです。

▲ 遊びを通して多様な体験をしていくために、幼児が、安心してのびのびと動き、自分の思いを出すことを大切にします。心が開放されることが「遊びを通して学ぶ」ための基盤となります。

▲ 先生や友達と遊ぶ中で、いざこざなどのマイナスの体験も含めて、「うれしい」「楽 しい」「悔しい」「悲しい」などの多様な感情体験を重ねていきます。そのことが、先生や友達、更には地域の人々などの様々な人と関わる力を身に付けていくことにつながっていきます。

▲ 幼児は、興味や関心に沿って遊ぶ中で、いろいろな遊具や道具などを使い、ものとの関わりを楽しみながら、それらを使いこなしたりして、ものと関わる力を身に付けていきます。

教師（保育教諭）は、幼児が夢中になって遊ぶ環境を整えて、幼児が、自己を表出し、ものや人と関わる力を身に付けていくことを大切にしています。

育みたい資質・能力につながる「遊び」になっていくためには？

「興味や関心に沿った学び」を支えています

【解説のポイント】

幼稚園教育(幼保連携型認定こども園教育及び保育)において育みたい資質・能力を育成する「遊び」になっていくために、幼稚園教諭・保育教諭(※)がどのような指導をしているのかについて、指導計画作成、環境の構成、教師(保育教諭)の援助、指導の振り返りの4つ段階に分けて解説します。また、遊びを通して様々な体験を重ねていく指導が、幼児の「興味や関心に沿った学び」を支える指導であり、幼児の学ぶことの楽しさや面白さの体験を支えていることも解説します。

【説明の一例】

園では、遊びの中で様々な体験を通して、幼稚園教育(幼保連携型認定こども園教育及び保育)において育みたい資質・能力が育まれるようになるために、指導計画作成や指導をいろいろ工夫しています。

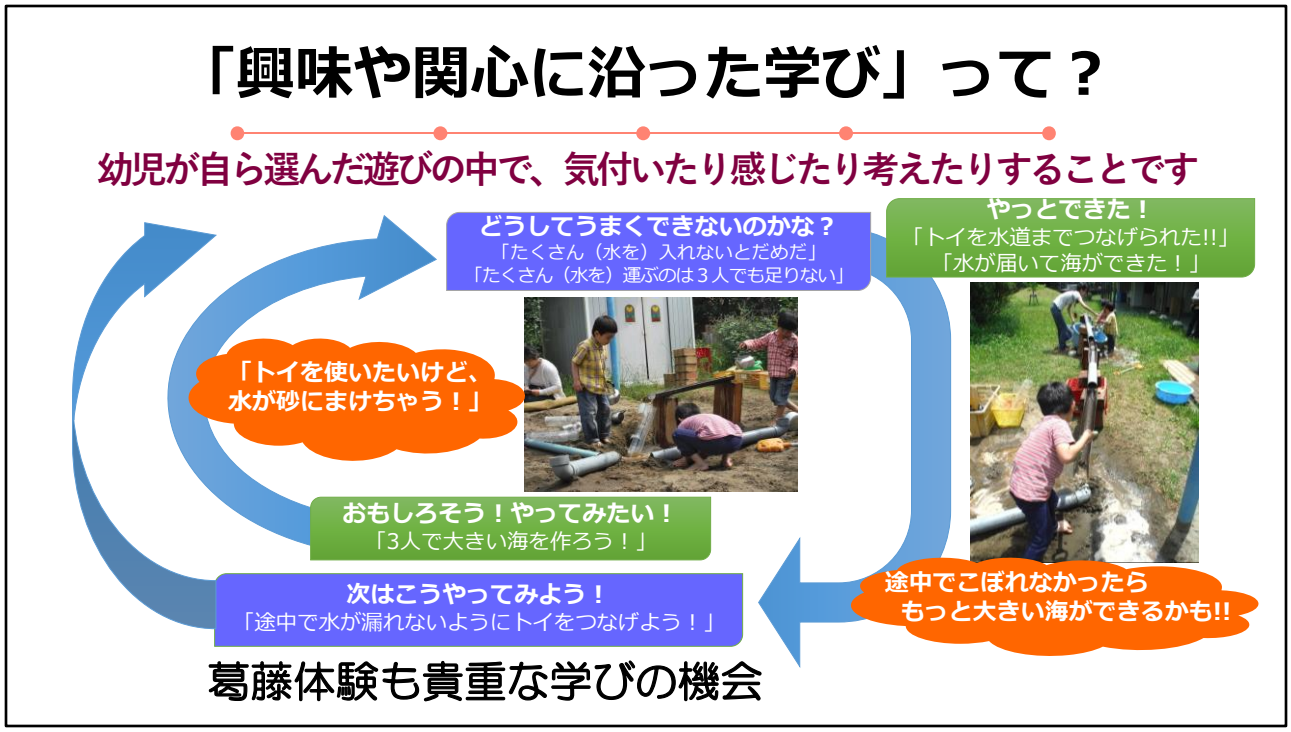
第１段階では、幼児の姿をよく観察し、その興味や関心を捉えて幼児理解(※)を深め、発達を見通し、保育を構想し指導計画を作成(※)します。

第２段階では、幼児たちがどのように遊ぶのかを予想し、必要な物を用意したり場を整えたりして、遊びの環境を構成(※)していきます。

第３段階では、具体的な保育の展開(※)では、教師(保育教諭)は、幼児一人一人の気付きや思い、考え等を受け止め、豊かな体験につながるように、言葉を掛けたり、一緒に遊んだり、見守ったりして援助していきます。

第４段階では、保育が終わった後に、教師(保育教諭)は、幼児たちが経験していることや学んでいることを整理して、自らの指導を振り返り、明日の保育を考え、次の指導計画作成につなげていきます。

この4つの段階を繰り返し、教師(保育教諭)は、幼児の学ぶことの楽しさや面白さの体験を引出し「興味や関心に沿った学び」を支えていきます。



【解説のポイント】

具体的な事例を通して、夢中になって遊ぶ中で、幼児は様々なことに気付いたり経験したりして、学んでいることを紹介し、「遊びの中の学び」を解説します。

【説明の一例】

年長５歳児の砂場での遊びを例に、幼児たちが夢中になって遊ぶ中でたくさんのことを気付き、発達に必要な経験をかさねている姿を紹介します。

▲３人の幼児たちが、「大きい海を作ろう」と、遊び始めました。
トイを使って水を流し、水をためようとしますが、砂に浸みるのが早くて水はたまりません。
「水が砂に負けちゃう！」「どうしてたまらないのかな？」と困ってしまいました。
「たくさん水を入れないとだめだ」と考えて、3人同時に水を流してみましたがうまくたまりません。
「たくさん水を運ぶのは3人でも足りない」と、更に考えました。

▲そこで、トイを水道までつなげて、直接水を流すことを思いつきました。時間が掛かりましたが、トイがつながりました。「トイを水道までつなげられた」「水が届いて海ができた」とやっとのことで海ができて、自分たちでやり遂げた満足感や充実感を味わいました。すると、さらに、「途中で漏れなかったら、もっと大きい海になるんじゃない？」と、新たな考えが生まれてきました。
３人には「途中で水が漏らないように、トイをつなげる」という、新しい目的ができてきました。
トイがぐらぐら動かないようにしっかり埋めることや、トイの重なりの上下を考えて重ねて、水がこぼれないようにつないでいくこと等、新たな発見をしながら遊びを続けていました。
この遊びの中で、３人には、それぞれの思いの行き違いからトラブルになることもありました。その場合も、相手に自分の考えを伝えたり、自分の気持ちをコントロールしたりする等の体験を通して、達成の喜びを味わう機会となりました。

幼稚園・幼保連携型認定こども園で、教師は何をしているの？

幼児を理解し、幼児の豊かな学びを支えています

【解説のポイント】

幼稚園の教師（幼保連携型認定こども園の保育教諭）の仕事を解説します。幼児が夢中になって遊んでいる時には、教師（保育教諭）は遊びのよき理解者や幼児がうまくできないところ援助する援助者になります。また遊びのモデルになって幼児たちが遊び出すきっかけを作ったり、いざこざなどの場面では調整役になったりして、教師（保育教諭）が積極的に関わっていくこともあります。いずれにしても、教師（保育教諭）は、幼児理解を深め、幼児が遊びの中で実現したいことを把握して、幼児自らが発達に必要な経験を重ねていけるようにするために、様々な役割を果たしていることを解説します。

【説明の一例】

幼稚園の教師（幼保連携型認定こども園の保育教諭）は、遊びの場面でどのようなことをしているのでしょうか。写真を見ながら紹介します。

▲幼児が夢中になって遊んでいる時には、遊びのよき理解者や必要な援助をします。教師（保育教諭）は一人一人の動きや表情、言葉などから幼児理解（※）を深めつつ、幼児が遊びの中で、いろいろなことに気付き学びを深めていくためには、どのような援助が必要かを考えて、幼児の遊びに関わっていきます。

▲いざこざでは調整役になり、幼児の心を落ち着かせながら教師（保育教諭）と一緒にどう解決したらよいかを考えながら、人間関係を学ぶ場を作っていきます。

▲時には憧れの遊びのモデルになって動いたりして、幼児が遊び出すきっかけを作ります。

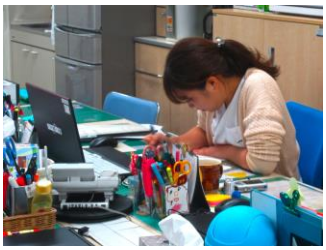
教師（保育教諭）は、幼児が夢中になって遊べるように、そしてその中で多様な体験ができるように、様々な役割を果たしているのです。

幼稚園・幼保連携型認定こども園で、教師は何をしているの？

質の高い幼児教育を追求しています

教材研究

研修・研究



保育記録

【解説のポイント】

幼稚園の教育（幼保連携型認定こども園の教育及び保育）実践の質向上のために教師（保育教諭）が行っている仕事について解説します。保育終了後には、毎日保育記録の整理をして、幼児一人一人の発達の理解を深め、次の指導計画を作成します。教材研究やその意見交換、また園内外の研修に参加することで、教師（保育教諭）の資質・専門性を磨いています。

【説明の一例】

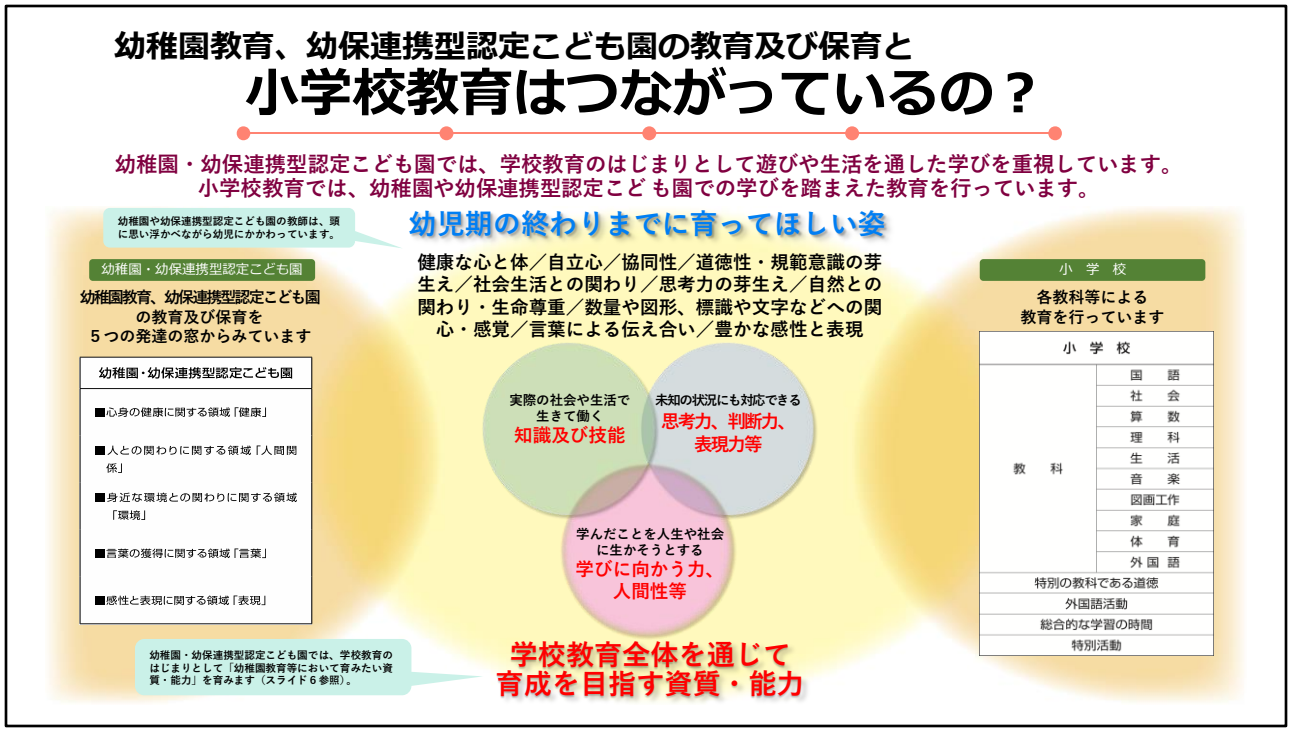
保育終了後の教師（保育教諭）の仕事を紹介します。

▲保育終了後には、幼児たちの様子や出来事を話し合ったり、保育記録を書いたりしながら幼児をより深く理解したり自分自身の保育を振り返ったりします。

▲幼児の発達に即してよりよい教育環境を作るために、教材研究を重ね教師同士で意見交換します。また、その成果を生かして、幼児の思いと教師（保育教諭）の願いを絡めた環境の構成を考えていきます。

▲また、園外の研修会に積極的に参加して、それぞれが学んだことを園内で報告し、共有したり、研究に取り組んだりして、日々の指導に役立て、遊びを通して幼児が豊かな学びを得ることができるように努めています。

こうした教師（保育教諭）の研修・研究は、質の高い教育（教育及び保育）実践を追求するためにとても重要です。教師（保育教諭）自身も学び続けています。



【解説のポイント】

幼稚園(幼保連携型認定こども園)から高等学校までを通して、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力を育みます。幼稚園(幼保連携型認定こども園)では、学校教育のはじまりとしてその基礎を育みます。それが、すでにお話しした、幼稚園教育(幼保連携型認定こども園の教育及び保育)において育みたい資質・能力である「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」です。幼稚園教育(幼保連携型認定こども園の教育及び保育)において育みたい資質・能力が育っている幼稚園(幼保連携型認定こども園)修了時の具体的な姿が「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(※)です。幼稚園の教師(幼保連携型認定こども園の保育教諭)と小学校の教師は、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに、子供の発達や学びの円滑な接続を図っていることを解説します。

幼稚園(幼保連携型認定こども園)では、遊びを中心とする教育(教育及び保育)において学んでおり、その成果を受け止めて、小学校教育では、教科等の学習を中心とする教育を通して学んでいます。幼児期と児童期のそれぞれの発達段階によって学び方は異なりますが、学校教育において育みたい資質・能力は一貫していることを解説します。

【説明の一例】

幼稚園教育(幼保連携型認定こども園教育及び保育)は、学校教育のはじまりということをご存知でしょうか。学校教育では、幼稚園教育(幼保連携型認定こども園の教育及び保育)から高等教育まで一貫して「生きる力」を育成しています。具体的には、「実際の社会や生活で生き働く知識及び技能」、「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力等」、「学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性等」の3つの資質・能力です。

また、現在、幼稚園教育(幼保連携型認定こども園の教育及び保育)の成果が、小学校教育につながっていくために、幼稚園の教師(幼保連携型認定こども園の保育教諭)と小学校の教師とが「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有する取組みがなされています。特に、小学校では、入学時にはスタートカリキュラムを作成し、幼稚園教育(幼保連携型認定こども園の教育及び保育)と小学校教育

との円滑な接続を図っています。

子育ての悩み、どうしてる？

幼稚園・幼保連携型認定こども園では
様々な子育ての支援をしています

親子で楽しむ園生活

園は、共育ての場所！

【解説のポイント】

幼稚園・幼保連携型認定こども園では、在園の保護者たちにはもちろんですが、地域の未就園の子供を持つ保護者とその子供たちのために、様々な子育ての支援を実施しています。それぞれの園で実施している子育ての支援を例に挙げながら、子育ての支援を通して、家庭と園、地域社会が連携して子供たちの健やかな成長を支えていくことの意義を解説します。

【説明の一例】

園では幼児の健やかな成長をご家庭と共に見守ることを願い、様々な子育ての支援をしています。

▲親子で楽しむ園生活を提案しています。親子で楽しめるいろいろな遊びについては、全国国公立幼稚園・こども園長会のHPで紹介しています。ぜひご活用ください。

▲地域の未就園の子供を持つ保護者とその子供たちのために園を開放しています。また、子育て講座の開催や子育て相談も受けています。地域の幼児期の教育（乳幼児期の教育及び保育）の拠点となるように努めています。

子育て情報の発信や「子育てひろば」の開催、我が子の「よさ」を発見できる保育ボランティアの機会の提供なども行っている園もあります。いろいろな取り組みをしていますので、ぜひ活用して、一緒に子育てを楽しみましょう。

幼稚園や幼保連携型認定こども園では多様な取り組みを行っています

- 食べることに親しむ活動
- 学校保健、学校安全
- ICTを活用した情報発信等
- 特別な配慮を必要とする幼児への指導

【解説のポイント】

幼稚園・幼保連携型認定こども園では、これまでに述べてきた活動以外にも、園や地域の実態に応じて、食べることを楽しむ活動や、学校保健や学校安全に関わること、ICTを活用した情報発信等々、様々な取り組みをしています。また、特別に配慮を必要とする幼児の受け入れやその指導の充実も図っています。

【説明の一例】

幼稚園・幼保連携型認定こども園では、園や地域の実態に応じて、様々な取り組みをしています。

▲枝豆を栽培し、みんなで食べるために、一つ一つもぎっています。みんなで育てた枝豆だからこそ、楽しくいただくことができます。

▲ICT（情報通信技術）を活用して、幼児の直接的な体験を生かすための工夫をしながら活用していきます。例えば、園庭で見付けた虫をカメラで接写し肉眼では見えない体のつくりや動きを捉えたりすることで、直接的な体験だけでは得られない新たな世界に気付いたりしていきます。

さらに、学校保健に基づいて健康で安心な環境を整え、健康に関わる指導をしています。また、安全に関わる指導や学校安全の管理などを行い、幼児自身が自らの命を守る行動が取れるようにしています。

特別な配慮を必要とする幼児の受け入れに当たっては、個別の指導計画を作成したり、保護者と連携し療育や心理臨床などの地域の専門家とともに個別の教育支援計画を作成したりして、充実した指導をしています。

【おわりに】

幼稚園(幼保連携型認定こども園)における教育(教育及び保育)実践の質向上にためには、保護者や地域の方々からの幼児教育に対する理解と協力を得て「社会に開かれた教育課程」を実現していくことが不可欠です。

このため、本パワーポイントは、各園において、保護者や地域の方々に分かりやすく幼児教育を伝えるための資料となることを想定して作っています。各園の実践などを交えながら、本パワーポイントを効果的に活用してくださることを期待しています。

制作:一般社団法人保育教諭養成課程研究会
協力:全国国公立幼稚園・こども園長会

＊本書の活用に当たっては、合わせて幼児教育啓発パンフレット「幼児一人一人が未来の創り手に－幼児教育Q＆A－」も活用ください。
＊本パワーポイントと幼児教育啓発パンフレットは、以下のホームページよりダウンロードできます。

一般社団法人保育教諭養成課程研究会　http://youseikatei.com/
全国国公立幼稚園・こども園長会　http://kokkoyo.com/

なお、本パワーポイントは、2019年度文部科学省委託研究「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」委託業務として、一般社団法人保育教諭養成課程研究会が作成したものであり、著作権は文部科学省にあります。したがって本パワーポイントの転載、引用等には文部科学

省の承認手続きが必要です。なお、写真の使用につきましては、固く禁じます。

幼児一人一人が
未来の創り手に
ー幼児教育Q＆Aー

2019（令和元）年度文部科学省委託研究「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究」

一般社団法人保育教諭養成課程研究会
（協力団体：全国国公立幼稚園・こども園長会）

「幼児一人一人が未来の創り手にー幼児教育Q＆Aー」作成協力者

新山　裕之　港区立青南幼稚園
神長美津子　國學院大學
箕輪　恵美　中央区立有馬幼稚園
山下　文一　松蔭大学
渡部佳代子　江東区立第五砂町幼稚園
加納千恵子　浦安市立入船南認定こども園
田代　幸代　共立女子大学
宮里　暁美　お茶の水女子大学
山田有希子　東京学芸大学附属幼稚園（小金井園舎）

（敬称略　五十音順）

幼児一人一人が未来の創り手にー幼児教育Q＆Aー
2020年3月
一般社団法人保育教諭養成課程研究会　理事長　無藤　隆

《事務局》
〒243-0124　神奈川県厚木市森の里若宮9番1号
松蔭大学　コミュニケーション文化学部子ども学科
山下　文一　研究室